

第3章 プロジェクト学習における学年掲示版と My Learning

Autumn Project は、各学年で総合的な学習の時間、学活と道徳を中心として、地域とつながり、地域に還元できる活動を念頭に置きながら実践した。Winter Project では、これまでの取り組みを省察していくことを中心に、各学年が取り組んでいった。各学年の取り組みについては、この後第4章で掲載している。取り組みは各学年が中心となっているが、全校で共通して取り組んだ実践が「学年掲示版」と「My Learning」である。

1 プロジェクトの核

プロジェクトの核は「①生徒が主役」の「②地域に根ざした活動」の2つで活動を生徒とともに創っていった。

2 学年掲示版

学年掲示版には、3年間を貫くテーマ、今年一年の目標、そして活動を通しての学びを掲示した。(図1)

3年間を貫くテーマは、突き詰めていくことで、プロジェクト型学習になるのではないかと考えている。各学年のテーマは以下の通りである。

- 1年生…AGO NAVI
- 2年生…AGO プライド
- 3年生…発信・核・感謝

それぞれの学年が、活動を通して得た学びをクラスで共有し、個人の学びで終わらせるのではなく、クラスとしての学びにすることができたと考える。また他の学年の生徒も見ることができ、安居中学校全体の学びとして共有できたのではないかなと思う。このように学びを可視化することは、とても重要であると考えます。さらに、生徒にどのような学びがあったかを気づかせることは、教師の力量が問われることになる。教師が、どの生徒に、どのような学びが合ったのかを見取り、生徒にどのように返していくかもとても大切である。

3 「年3回の My Learning」

令和元年度、これまで本校で行ってきた「思い出語ろう会」を「My Learning」として生まれ変わらせた。活動の意味と内容を生徒会と当時生徒会担当の私と竹内教諭で再構築した。これまでは、活動が終わるたびに、原稿用紙を使ってまとめた新聞を持ち寄り、その活動を他学年と共に振り返るとするのが「思い出語ろう会」であった。

「My Learning」は、生徒全員が自分の「学び」に焦点を当て、A0のポスター用紙にまとめ、自分の言葉でまとめ、自分の言葉で話すというものである。回数は年間3回で「Summer Project」、「Autumn Project」、「Winter Project」が終わる節目として行った。1回目は、Summer Project のまとめとして、A3のコピー用紙に自分の学びをまとめた(図2)。2回目は、Autumn Project のまとめとして11月の公開研究会の時に、全員がA0の大きさのポスターにまとめ発表した(図3)。また、昨年度は希望教員のみ生徒と共にポスター発表を行ったが、本年度は、研究主題にある「共に創る」という視点から教員も全員 My Learning を行った(図4)。



図1 学年掲示版



図2 My Learningの様子



図4 教師の My Learningの様子

3回目はすべてのまとめとして3月に行った。本来であるならば体育館で全校生徒が一同に会して行う準備をしていたが、コロナウイルス感染拡大防止の観点から各学年での実施となった。

今年度の My Learning は、語るだけではなくて深めることにも注力した。1回目の My Learning は、それぞれの学びの内容が近いメンバーでグループを作り、学びを共有しやすくした。発表時間は質疑応答を含めて1人15分。ファシリテーターは3年生が行った。グループは事前に連絡して、グループのメンバーの発表内容を見て、質問内容を考える時間を設けた。3年生はファシリテーターとしての責任を考えさせた。1年生にとっては初めての「My Learning」となった。3年生はしっかりリードし、1、2年生の学びがどんなものだったか、思考と行動を上手に結び付けていた。2回目の「My Learning」は、公開研究会の日に行った。公開研究会と同日開催のため、他の学校の先生方にも見ていただき、生徒に質問して下さった方もいた。他校の先生などの参観者が参加してくださり、上手に褒めたり、承認したりしてくださることで、生徒にとっても達成感が大きくなると思われる。3回目の「My Learning」は、これまでの自分の学びを語り、深める活動だけにとどまらなかった。3年生の生徒からの提案で、「よりよい安居中学校にするには」という課題について話し合いを行い、安居中学校のこれからや生徒一人一人の当事者意識を高める活動を行った。

6 成果と課題

私が生徒会と共に「My Learning」という活動をはじめて3年経った。初年度は100%そこに関わっていたが、2年目はプロジェクト学習の主任という位置におり生徒会には所属していなかった。そのため、自分が直接関わるのではなく間接的に関わる形となった。思い描く「My Learning」という形に100%はならなかったものの希望者のみの教員が参加するという形は実現できた。そして今年は、昨年度以上に关わる事が出来なかったが、生徒だけでなく、全教職員が My Learning に参加することにより他の教員の手によって違う解釈や視点との融合をみる事ができた。発起人や担当が変わっても色あせることなく、また新しい色を付けて、生徒や教員の学びが紡がれていくことをこれからも期待したい。

ただ、それと同時に、課題も見えてきた。作った当時は生徒と共に創り、生徒から生徒への提案する形だった。しかし、今年は、すべての教員から生徒に下ろす形で行った。ここは、昨年のように生徒と共に創るという視点で、軌道修正を図るべきだろう。そもそも学校を創るのは生徒であるべきであり教員ではない。生徒が本当の主旨を理解し、生徒が運営していかなければ、いろいろ考えて教員が創っても、教員が異動してしまえば、次の年に繋がっていかないと考える。生徒が真に理解し、運営を行ってこそ、持続可能な活動になるのではないかと思う。教員は、与える仕事ではなく、心を育てる仕事であることを、再度考える機会となった。共に創り育む心を再度持ち、来年度の研究の方向性にできればと考えている。

(文責 川端 康誉)